

此日午前十時頃、争議団員六百余名、争議因本部前子集合し、藤原信高、遠志一志、小林只市、山本繁善、吉田清造、松若豊吉、佐伯良之吉等、今回解雇された者及当工場職工、片山一五郎の八名は争議代表となり、藤原信高、前巨太正座子於て決議したる新要來書を携帶、表門保安係より出頭し、工場長と面會を求む。然れ共解雇職工と會見するの必要なきを以て之を評し、職工代表委員を選ぶ可き旨を香川警署長、捕房長、同警署長に彼等、答へ、押問答中、争議団六百余名が常働歌を高唱し、ついで會談を先頭を表門の内、迫り來り。

斯くて彼等との會見、工場長の拒否する處より解雇者にて解雇に關する事案のみを對しての質問、懸掛、細軟となせり。午後十一時十分至十二時、藤原信高、遠志一志、藤原信高、遠志一志、會見、工場長、世子、謹氏、主事兼事務部長、竹内十一郎氏、道機部長、西牧忠彦氏、庶務課長、山崎政男氏

被解雇者、因島労働組合幹事長、藤原信高氏、遠志一志氏

藤原氏、私達は臨時休業を對しては整備、休業してゐる。たが昨夜代表を出して會

社側と會見する事と決りませぬ。

世子氏、其れだけか、始めから香川や人の話の通り内の工場の人では話と合ふが他は會

はぬ、君は工場の人ではないから。

藤原氏、吾々は解雇の理由がないから。

世子氏、君は何の事があるかと會社に立派に通知した。君達が認めないと云ふ事は、承理

に何らんと思ふ。其れで君達が認めなければ認めない。認めなくとも會社は

會社で正當であると思つてゐる。だから。

藤原氏、然し場長、吾々の雇傭契約は拾参銭では解決は出来ない。其處簡單

な事も出来ない。

世子氏、勿論簡單な事ではない。

山崎氏、君達は急業や罷業をやらず、随分最初から損害を興へてゐる。それは如何か、